

慈眼

第20号

発行所
唐津市西十人町127 法蓮寺内
TEL 0955-72-2393
FAX 0955-74-4948

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者
藤山英周

ご挨拶

日蓮宗佐賀県修法師会会長

昌善寺住職 鶴 孝澄



この度、亀川学俊前修法師会長任期満了により県内修法師皆様のご推薦を受け、浅学非才その任に非ずと迷いましたが、県内寺院・檀信徒の為の御奉仕と存知お引き受け致しました。

私は五行を成満致しましたが、その時の体験を踏まえ百日の修行についてお話し申し上げます。大聖人の『諸法実相抄』に「相構え相構えて信心強く候て、三仏の守護をこうむらせ給うべし。修行の二道を励み候べし。行学絶えなば仏法は有るべからず。我れも致し、人をも教化候え。行学は信心より起ころべく候。力あらば一文一句なりとも語らせたもうべし」とい

ざいますが、私達修行僧にあつては、自分の為の行でなく檀信徒の為の行だと言う思いがありますので百日間の修行が出来ると存じます。

日蓮宗の大荒行堂とは正式には日蓮宗加行所と申し、この行堂に入行出来る男性教師は信心堅固・心身強健であることは勿論、厳格な宗門のテストに合格した者しか入ることは出来ません。入行する教師は手続きが全て終わり宗門より入行許可が下りますと、行堂開始前日に『報恩講』という修行に入る行僧が一同に会しての顔合わせと、諸の説明が行われます。この時には修行僧同士、特に再行(二回目)以上の先輩は「ヤアヤア暫く、今回もお互いに頑張つて修行しようじゃないか」とか「修法上大きな壁にぶつかったので、これを解決するためにまた入行したんだ」等、話題は豊富で仲々賑やかですが、初めて入行する人達は荒行堂のことを聞くとは知るとではこうも違うものかと戸惑いながら、何で荒行に来たんだらうとか、久しく会わなかった同級生が大先輩で閉口する場面もありますが、各々百日間の行を意識し、その態度は心身共に引き締

まりコチコチになつて居ることが誰の眼にもハッキリ解ります。この緊張は見送りの檀信徒や親族に伝わって来るものです。

入行会は十一月一日午前十時に全行僧が中山法華経寺、常修殿に集合し直ちに伝主、正伝師、副伝師、と並び加行僧を率いて祖師堂に昇堂。入行式が行われ先輩上人の読経の早さに初行僧は度肝を抜かれます、午後再び法味を捧げ整然と行列を組んでお堂を出発し、表参道に入り大聖人御親刻の鬼子母尊神ご奉安の尊神堂に進み、本日より百日間の結果修行の報告と、魔事魔障無く無事修行出来ませにとの願いを申し上げ、師僧、檀信徒、親族、友人が見守る中、加行所の瑞門(正門)をくぐります。全員が入ると門は封印され翌年二月十日の成満まで開かれることはありません。

この日より加行僧の苦修錬行が始まりますが、見送りの人々は皆感激の面持ちにてその場を去り難く互いに紅潮した顔を見合わせつつ何時までも名残を惜しんでいます。

私達修法師は未来の世のため、法華経、お題目の信仰を深め、研鑽し、自分達檀信徒だけでなくお題目に縁薄き人々がお題目へ導かれるように、僧俗一体となり一歩一歩大聖人の誓願達成に向けて精進下さるようお願いし、修法師会へのご協力をお願い申し上げます。

きゃーひん

(かいつぶり)

七月に長崎でおきた十二歳少年による殺人事件、その少年の児童自立支援施設送致が決まりました。私事で恐縮ですが事件の後、近所の小学校から《生命の貴さ》について話をして欲しいとの依頼がありました。

「ご先祖様からずつと受け継がれた命のバトン、今僕がここに生まれて生きているのは奇跡的なことなんだなあと思いました。」話を聞いた五年生の男の子の感想です。奇跡的に授かった命をどう生きなければならぬのか、それを子供たちに伝えていくのは私たち大人の務めです。

「人身は受け難し爪の上の土、人身は持ち難し草の上の露、・蔵の財より身の財、身の財より心の財が第一なり」日蓮聖人崇峻天皇御書でのお言葉です。



【特集】

《本弟子》

前号でも少し触れましたが、今回は本弟子・六老僧について説明いたします。

生涯を法華經の弘道に捧げられた日蓮聖人は弘安五年（一二八二）九月八日、九カ年の間住みなれた身延山を下山、同月一八日千束池上の地、池上宗仲の館に入られ、ここを臨終の地と定められました。翌月十月八日「本弟子」六人を定めて聖人御入滅後の教団の運営、門下の育成を委ねられました。日興上人が執筆された『宗祖御遷化記録』に「十月八日本弟子六人を定め置かる、此状六人面々に帶すべし云々日興一筆也」とあります。その「定」の文は、

- 一 弟子六人事 不次第
- 一 蓮華阿闍梨日持
- 一 伊興公 日頂
- 一 佐渡公 日向
- 一 白蓮阿闍梨日興
- 一 大國阿闍梨日朗
- 一 弁阿闍梨 日昭
- 右六人者本弟子也、仍て向後の為定むる所件の如し、

弘安五年十月八日

日頂上人の中山門流は御遺文の整理・保存に力を入れた。



中山法華經寺 聖教殿。

と認められています。冒頭に書かれている「一弟子」とは第一の弟子・長老の事で、「本弟子」と同意です。

また「定」には「不次第」とありますが、六人の年齢を見ると、このとき日頂上人は三三歳、日頂上人は三一歳、日向上人は三〇歳、日興上人は三七歳、日朗上人は三八歳、日昭上人は六二歳で、年齢的には不次第ですが、その記載の順序

は入門・法臈（法の上での年齢。出家してから年数）の年序次第をふんでいます。ですから、不次第とは年齢に関するものでなく、一弟子・本弟子として門家の法灯継承者として仰がれるものであるから区別をするべきでないということから「不次第」と記されているのでしよう。

これら六人の本弟子はそれぞれ、相模（神奈川県）の鎌倉、武蔵（埼玉県周辺）、上総（千葉県中部）、下総（千葉県北部）、安房（千葉県南部）、甲斐（山梨県）、駿河（静岡県中部）、佐渡など各地で日蓮聖人の教えの継承とその伝播に努められ、布教活動を展開されました。

また、本弟子は六人おられたので、後世には「六老僧」と称されるようになり、その系統を「六門跡」と呼ぶ事もあります。

このように、本弟子とは日蓮聖人より直接教えを受けた方であり、その教えを広く伝え、教団を護られた方々です。

「伝える」事がなければ、いつかは消滅していきます。現在の日蓮宗があるのは、日蓮聖人は基より、六老僧を始め、教えを脈々と伝える方々がおられたからです。私達も、日蓮聖人の教えを後世に伝えるべく、信行に励まなければなりません。

花と葬儀

木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会



草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 (0952) 30-4040
FAX・30-4043

南佐賀草苑本庄 佐賀市本庄町大字本庄951 (0952) 25-1255
FAX・25-1088

佐賀の老舗 信用本位 技術本位

辻の堂の仏だんや (株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

「此経難持」…宝塔偈のはなし

「シキヨウナンジ」、お題目の後に独特の節でお唱えするこのお経は、俗に「此経難持」とか「難持経」等と呼ばれ、盛んに読まれています。実はこのお経、法華経第十一番目のお経「見宝塔品」の最後に説かれている偈文（詩句）であることから、「宝塔偈」と言います。このお経「見宝塔品」には、お釈迦様が亡くなられた後、我々弟子たちがこの法華経を信じ弘めていくうえでの六つの難しいことと、九つの易しいことが対比されて説かれていきます。又、九つの易しいことも必ずしも易しいことではなく、普通では大変難しいものとされていますが、お釈迦様滅後法華経を持ち弘めることに比べれば易しいことであるとされています。即ち六難とは、

- 1、広説難—法華経を説き弘めること。
 - 2、書写難—法華経を自ら書き、他の人にも書かせること。
 - 3、読誦難—法華経を読んだり、誦したりすること。
 - 4、説法難—法華経を人のために説き聞かすこと。
 - 5、問義難—法華経を聞き、その意味を問うこと。
 - 6、受持難—法華経を持ち続けること。
- 以上の六つが六難で、九易とは、
- 1、無数にある法華経以外の經典を説くこと。
 - 2、大きな山『須弥山』を手にとって投げること。
 - 3、足の指で三千大千世界を動かして他国へ移すこと。

- 4、『有頂天』という最高の山で、大衆のために無量の經典を説くこと。
- 5、虚空を手にとって自由に歩くこと。
- 6、足の爪の上に大地を載せて天に昇ること。
- 7、乾草を背負って大火の中に入っても焼けないこと。
- 8、法華経以外の經典によって神通力を得ること。
- 9、無数の衆生に法華経を説いて小さな悟りを得させること。

以上が九易です。このように法華経を持ち弘めることの難しさが説かれていきます。それでは、「宝塔偈」のお経文をおつて解説致します。

【此の経は持ち難し 若し暫くも持つ者は 我則ち歡喜す 諸仏も亦然なり】

この法華経を信仰して持ち続けて、実行するのは容易なことではありません。だから、もししばらくでも受持するものがあれば、我（お釈迦様）は非常に喜びます。亦、全ての仏さまも皆喜ばれることでしょう。それは、お釈迦様の教えを信じることで、全ての仏の教えを信じることになるからです。つまり、法華経を信じ持つことは、堅い信心が無くてはできないのです。この信心こそが、全ての人々を救済することにつながっていくこととなります。

【是の如き人は 諸仏の歎めたもう所なり 是則ち勇猛なり 是則ち精進なり 是を戒を持ち 頭陀を行ずる者と名づく】

このように法華経を持つ人は仏さまがほめ讃えるほど尊い人であり、これこそどんな困難にも打ち勝つ、勇気のある人

であり、その道に向かつて真つ直ぐに進んで行く精進の人であります。戒とは仏さまの教え、即ち法華経でありお題目のことで、頭陀とは全ての物質的欲望のこととあります。その欲望を捨て法華経を信じ、お題目を一心にお唱えすることこそ真の仏道の修行であるといえるのです。

【則ち為れ疾く 無上の仏道を得たり 能く来世に於いて 此の経を読み持たんは 是れ真の仏子 淳善の地に住するなり】

このような善い行いを続けて行けば、無上の仏道即ち仏に成る道が得られるのです。未来の末法の世にこの法華経を信仰し実践する人こそ真の仏さまの弟子・子供であり、雑じり無いすばらしい境地に至り住することが出来るのです。

【仏滅度の後に 能く其の義を解せんは 是れ諸の天・人 世間の眼なり 恐れ世に於いて 能く須臾も説かんは一切の天・人 皆供養すべし】

仏滅後の末法の世に、法華経の真の意味を理解して体得するならば、これこそ天上界・人間界世間全ての目標となるでしょう。恐ろしい末法の世でありますから、正しい教えを弘めようとすると、それを邪魔しようとする者が出てきます。しかし、しっかりとした信念を持って法華経を説く人がいるならば、天も人もその努力に感謝してその人々をお守り下さるでしょう。

手を合わせるころを大切に・・・



山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 TEL 840-0824 FAX (0952) 23-4308

- ・寺院用具一式
- ・登高座
- ・仏壇
- ・鐘
- ・塗
- ・前修復
- ・修天蓋
- ・人天蓋
- ・宗教絵画
- ・その他
- ・卓復
- ・須弥
- ・美術彫刻品
- ・神像
- ・神像彫刻
- ・金物
- ・須弥
- ・美術彫刻品
- ・神像
- ・神像彫刻
- ・宮
- ・経
- ・仏
- ・環
- ・瑠
- ・箔

平成15年度・創業81年目、仏壇・仏具・墓石の総合プラザ

光古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952) 23-5521
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952) 23-5564

宗務所役員紹介

【宗務所長】

塩田町学成院住職 小寺 大誠

【宗務所顧問】

松尾山光勝寺貫首 田中 日学

【宗会議員】

佐賀市泰教寺住職 平井 照山

【伝道担当事務長】

佐賀市本経寺住職 初井 恵親

【宗務担当事務長】

小城市法撰寺住職 峰松 正法

【布教師会会長】

川副町正傳寺住職 静山 是秀

【修法師会会長】

唐津市昌善寺住職 鶴 孝澄

【社会教化事業協会会長】

小城市妙藏寺住職 藤尾 成能

【声明師会会長】

佐賀市正福寺住職 藤本 宣文

【教化センター長】

唐津市法蓮寺住職 藤山 英周

【協議員】

芦刈町妙長寺住職 加藤 智顕

佐賀市妙玉寺住職 石井 智俊

佐賀市國相寺住職 松島 正英

佐賀市蓮成寺住職 陣内 元良

小城市教仙寺住職 亀川 学俊

三日月町勝嚴寺住職 大野 義敬

大町町日國寺住職 本村 孝弘

多久市妙海寺住職 宮本 智昭

多久市湧泉寺住職 木下 海勇

【新聞支局長・局員】

佐賀市本経寺住職 初井 恵親

鹿島市本長寺内 辻 雅英

江北町妙善寺住職 前田 智憲

【会計・書記】

多久市本覚寺住職 吉永 正法

多久市等覚寺内 小寺 成文

小城市妙嚴寺内 友永 正宏

【参事】

三日月町円教寺住職 塚本 観聖

久保田町龍光寺住職 森永 憲章

多久市本覚寺住職 吉永 正法

佐賀市本行寺住職 松野 邦俊

大町町日國寺内 本村 仁孝

諸富町妙誓寺内 古賀 敬紹

小城市妙嚴寺内 友永 正宏

唐津市昌善寺内 鶴 孝仁

大和町親正寺住職 宝蔵寺学親

【青年会会長】

佐賀市賀昌院内 末永 孝司

役職紹介

【宗務所長】宗務所長は、管区を代表し、地方宗務及び地方活動を統括します。

【宗会議員】中央の宗務院にたずさわり、宗門全体の方針を決める議会を行なう役職です。

【伝道担当事務長】布教活動の企画実施を担当する役職です。

【宗務担当事務長】宗務所一般事務を担当する役職です。

【布教師会】言説布教を中心に、御会式、

お彼岸等の高座説教、テーブル説教を担当し、布教師の研修会等をおこないます。

【修法師会】県内修法師会の活動は、九州本山松尾山光勝寺の大祭等に出仕又県内研修会・毎年大荒行成満帰山式などに出仕致しております。

【社教会】祖願に立脚した社会の平和と福祉に寄与し社会浄化に貢献する会です。事業内容は少年刑務所慰問・歳末助合募金・家庭児童相談室開設の為寺庭婦人会と研修会開催。

【声明師会】声明師会は、教師(お上人)に対して日蓮宗で定められた法式・声明を正しく伝え、檀信徒には法華和讃の唱え方や、作法の指導を行なう組織です。

【教化センター】教箋「慈眼」において、檀信徒の皆様に法華経やご遺文の解説と様々な宗門行事の案内・報告をします。また、護法大会でのパンフレット等も作成しています。

【協議員】管内の布教及び事業その他重要宗務を協議します

【新聞支局】宗務所の広報活動及び日蓮宗新聞の取材にあたります。

【参事】宗務所の運営にあたります。
【青年会】会員相互の研修を行い青年僧としての資質を高めると共に、唱題行脚や寺院団体参拝などを通じて布教活動を行います。

仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で尊い品を



梅谷佛具店
TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)
7番出入口・博多座裏
支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

0120-39-0456
TEL 092-806-7499

通産大臣認可 7産第2930号



株式会社 冠婚葬祭こころの会

三日月町大字久米2084-1 ☎72-3177・FAX72-3633

こころの会指定店

総合葬祭

有限会社

黄城

小城市270

☎73-3938・FAX72-3633